

健全育成シリーズ (115)

子供の人間関係と遊びの時間



一年一年心身ともに成長しているのが子供です。人間関係も学年をおう毎に複雑になります。

低学年の場合、事件や事故があつた時、すぐ親や教師がとんでいって、体に体をつけて、その喜びや悲しみを感じてあげることが大切です。子供の体にやさしく触れることによつて、事件や事故も解決してしまふことが少なくありません。

中学年になると、友達の力が大きくなつて、友達に話し、相談することが多くなります。

高学年児童は、自分の体験した事故や事件から受けた悲しみや悩みを体の奥にしまい込んでなかなか表しません。

傷つく原因の多くが友達だし、相談することでさらに傷つくと考えているためか、今どんなに傷ついているか、外からはわからないことが多く、ひとりでもしまひ込んでいます。余計に傷が深くなります。しかし、子供が学校や学級で友達と様々なかかわりを持つ

ことは、社会性や自己抑制力の発達上重要なことです。

ところで、彼らほどのような理由で友達を選択し、また、排斥するのでしようか。ある調査の結果によると、「遊び」という目的に応じて友達を選ぶ傾向がかなり早くから芽生えているそうです。

排斥理由をみると全体的に自分の活動を阻止したり、自分の身に被害を与えるような友達を排斥しています。特に高学年になると、それに加えて、「なんとなく」とか「気持ちが悪く」というような人格にかかわる感性的な理由もあげて嫌うようになります。

「遊び」については、おもしろく、協力し合つて遊びたい。それをじゃましたり、うるさく言つて足並みをそろえられない友達や自分勝手な友達は排斥したいという気持ちが出てきます。

しかし、友達関係を築くための大きな要因の一つである「遊び」の時間が現在では少なくなつていようです。なぜそうなつたかについては、いくつかの原因が指摘されています。

一つは、地域社会の固有の生活基盤が崩れ、子供達がそこで遊び学ぶことが少なくなつたことです。今、彼らは、家に帰つた後、ふらりと外出しても、だれも、遊び相手が

いないのが普通です。昔は空き地かどこかへ行けば、必ずだれかがいてそこから遊びがスタートするものでした。

今、もし放課後家に帰つた後、だれかと遊ぶとすれば、前もつて学校で約束をしておかなければなりません。学校で約束できる相手となると、クラスメートが主になります。

もし、彼らが家に帰つた後、その一方が何かの事情で約束通り遊べなくなると、他方はそこで宙に浮いてしまいます。彼はそこから違う遊びを始めることが出来ず、たいていは家に留まることになります。

二つ目は、彼ら全体に学習負担が増加し、学校が引けた後、塾や稽古事の教室に通う者が多くなつたことです。現在の子供は、もつぱら家庭と学校という二点間を往復するだけ、もしくはそこに塾が加わつて、三点間を行き来しているだけということが多いようです。文部省の調査によれば、塾、教室に通う児童の数は、この十年間で倍増しています。

三つ目は、テレビ・ファミコンの影響をあげなければならぬでしょう。

このような現実はありませんが、今後も子供達の生活に潤いがあるように働きかけていきたいものです。

伝言板

大月保健所

大月市大月町花咲1608-3

☎(22)7824

冬は血液が不足します

献血にご協力ください

医療に必要な血液は、一年を通じて安定的に供給されることが必要ですが、冬は献血者が少なくなり、血液が不足がちになります。献血車が近くへ行った時や献血ルームでの献血にご協力をお願いします。

一月一日から二月二十八日までの二カ月間は「私たちの献血キャンペーン」が実施されます。二十歳の若者を中心とした、健康な若い世代の方々の協力を特にお願ひします。

また、私達が安心して輸血を受けたり、医療に必要な血漿分画製剤を献血で確保するために、四〇〇ml献血及び成分献血の協力をお願いしております。

献血場所

移動献血車

(巡回場所は山日・読売新聞に掲載)

献血ルーム

(県民会館一階)火曜日を除く毎日

「かかりつけ医」を持ちましょう!

健康のためには、病気の予防、早期発見、初期治療が大切です。

そのためには、気軽に診療や健康相談などが受けられる「かかりつけ医」が近くにあると安心です。

○「かかりつけ医」は、子供からお年寄りまで、家族のことは何でもわかり、健康について何でも相談できる心強い存在です。

○「かかりつけ医」は、過去の病歴や持病など、家族の全体像をしっかりと把握し、あなたの健康を生涯にわたつて気にかけてくれるパートナーです。

○「かかりつけ医」は、家族の健康に関するデータバンクであり、必要であれば適切な専門医を紹介してくれるアドバイザーです。

日ごろから何でも相談でき、親切に説明してくれて、また、いざという時に頼りになる近くのお医者さん、「かかりつけ医」を持ちましょう。

また、「かかりつけ歯科医」も一緒に持つて、安心できる生活を送りましょう。